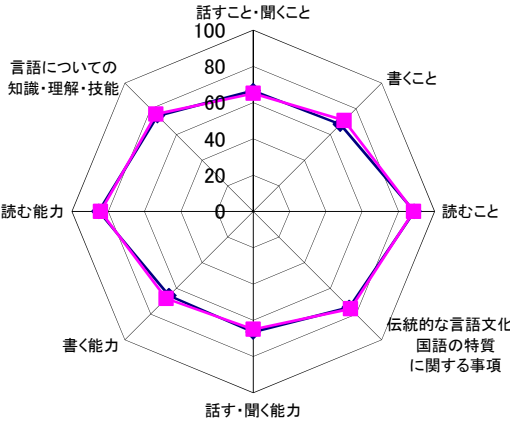


宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	66.5	65.0	62.9
	書くこと	67.8	70.9	71.3
	読むこと	88.8	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	66.5	65.0	62.9
	書く能力	65.6	68.0	68.0
	読む能力	85.2	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	74.6	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

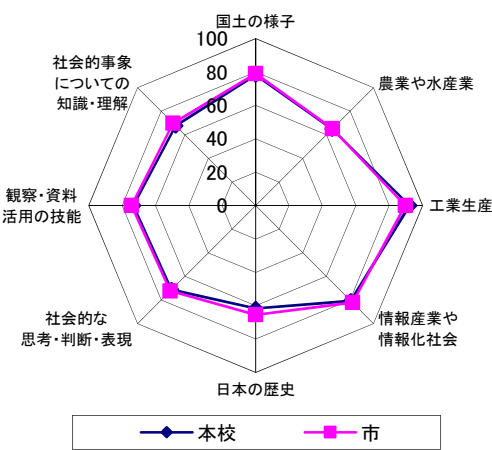
領域	本年度の状況	〇良好な指導は、 「 <u>言葉の力</u> 」を育てるもの 「 <u>言葉の力</u> 」を育てるもの
話すこと・聞くこと	〇司会者の役割を理解しながら聞き、話し合いの進め方を考える問題では、市の正答率を6. 6ポイント上回った。 ●話し手の意見の述べ方の工夫を考える問題では、市の正答率を1. 6ポイント下回った。	・聞き手に伝わりやすい工夫を学ぶことで、様々な教科や話し合い活動における各自の発表に生かし、その技能を身に付けさせていく。
書くこと	〇資料の内容を読み取って、文章に書き表す内容を選ぶ問題では、市の正答率を10. 6ポイント上回った。 ●指定された長さで文章を書く問題では、市の正答率を15. 3ポイント下回った。	・様々な教科の授業の中で、条件に合った文章を書かせる活動を多く取り入れ、自分の言葉でまとめていく力を養う。
読むこと	〇文章の表現の工夫を読み取る問題では、市の正答率を4. 3ポイント上回った。 ●登場人物の心情を読み取る問題では、市の正答率を2. 6ポイント下回った。	・物語文を読むときは、場面の描写や、心情の変化が書かれているところに線を引いたり、印をつけたりすることで、登場人物の気持ちの変化を理解できるようにする。 ・読み取ったことを児童同士で共有することで、多様な考え方があることに気付く機会を作るようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	〇5年生の漢字を書く問題では、市の正答率を大きく上回った漢字と下回った漢字が混在している。 ●5年生の漢字を読む問題では、市の正答率を10. 3ポイントも下回る漢字があった。 ●国語辞典の使い方を理解する問題では、市の正答率を7. 4ポイント下回った。	・新出漢字を学習する際に、漢字そのものの練習はもちろんだが、その漢字を含む熟語を用いた例文を調べたり、作成したりする機会を作る。 ・授業の中で、こまめに辞書を引き機会を設けたり、意味調べなどの辞書を使った宿題を増やしたりして、辞書の使い方十分に慣れさせる。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	78.4	79.1	74.9
	農業や水産業	64.9	65.1	63.7
	工業生産	92.2	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	80.7	82.2	73.1
	日本の歴史	61.6	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	71.1	72.2	69.0
	観察・資料活用・技能	73.3	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	67.7	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

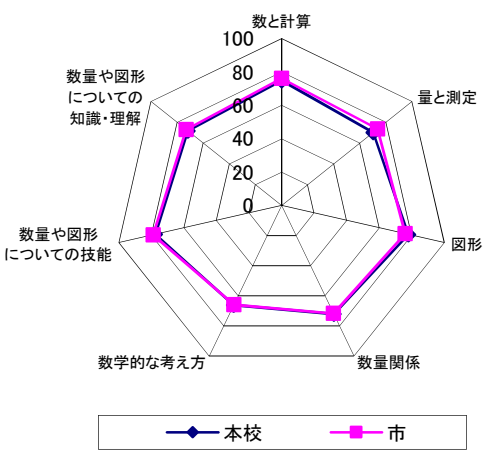
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○自然災害がおきた際の自助の大切さについて考えて表現する問題は、市の正答率を6.8ポイント上回った。 ●日本周辺の海洋名や日本の周辺国の国旗の理解、地形の概要の資料の読み取りに関する問題は、市の正答率を1～5ポイント下回った。	・地理的に重要な語句については、言葉の意味も合わせて理解できるようにするために、語句を使って、自分の言葉でまとめを行う時間を確保する。 ・授業中、地図帳で国名や地形を確認する機会を多く設ける。
農業や水産業	○米の生産量が多い地域の分布や食料確保における問題についての資料の読み取りに関する問題では、市の正答率を9ポイント上回った。 ●食料自給率や国産と外国産の農作物の値段の違いを読み取る問題は、1.4ポイント下回った。	・農業・水産業の単元では、出来るだけデジタル教材を活用するなど、多くの資料に触れさせるようにする。
工業生産	○工業製品を、工業の種類別に分類・整理する問題では、2.8ポイント、環境保全のための工夫や努力について考える問題では2.1ポイント、市の正答率を上回った。	・日常生活におけるさまざまな工業製品に目を向けさせ、新聞等にまとめる活動を通し、理解を深めていきたい。
情報産業や情報化社会	○情報ネットワークの利便性を読み取る問題では、市の正答率を上回った。 ●マスメディアの種類については市の正答率より3ポイント下回った。	・多様な情報メディアの特性を理解しながら、情報ネットワーク等の言葉を定着させていく。
日本の歴史	○幕末から文明開化、さらに明治維新にかけての理解は出来ており、9ポイント上回った。 ●室町時代から安土桃山時代にかけての文化や政策についての理解に関する問題では、市の正答率を5～17ポイント下回った。	・重要な語句や出来事については、その背景や意味も含めて理解できるようにするために、自分の言葉でまとめを行う時間を確保する。 ・歴史的な時代の流れを見据えながら、人物に焦点を当てた授業により、児童の興味関心を喚起させていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.9	76.2	72.9
	量と測定	70.3	73.6	70.6
	図形	77.9	76.0	72.1
	数量関係	72.1	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	66.1	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	77.6	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	71.9	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

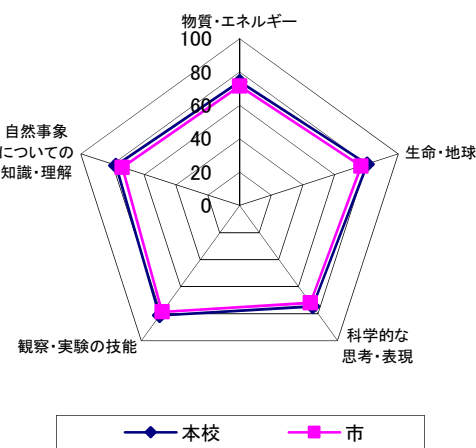
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○計算について、市の平均をやや下回るものの、参考値よりも2ポイント上回っている。中でも、分数÷分数(約分あり)の計算の正答率は90.2ポイントと高く全国平均を上回っている。 ●図を使って、小数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題では、市の平均を2ポイント下回った。	・基本となる事柄や、下学年の内容を確実に身に付けながら、当該学年の学習内容を身に付けていけるよう自主学習や朝の学習を活用して、反復練習させる。 ・問題の意味を捉え、数直線などの図を用いて考えたり、説明したりする力を育むために、図を読み取って式をつくる活動を積極的に取り入れる。
量と測定	○直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では、市の平均と同じだった。 ●全体的に市の平均を下回っており、特に人口密度や速さを求める問題で数値が4～6ポイント低い。	・単位量あたりの大きさを求めるときの問題の場面を読み取り、数直線の構造を基に立式できるような練習を多く取り入れる。
図形	平均正答率は他の領域より高く、昨年度より10.2ポイント上回った。 ○3辺の長さを使って、合同な三角形を作図する問題では正答率95.1パーセントと高く、市の平均を1.2ポイント上回った。 ●線対称な図形について、対称の軸が何本あるかを解く問題では市の平均を上回っているものの、領域内では正答率が低かった。	・応用的な図形を用いた対称軸の正しい意味を理解するために、具体物を使った実践の機会を増やすことで対称な図形の性質を身に付けられるようにする。
数量関係	平均正答率は、昨年度より4.3ポイント上回った。 ○比例・反比例では、反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求める問題で、市の平均より5ポイント上回った。 ●帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題では、市の平均を4.1ポイント下回った。	・割合を使う問題では、もとにする量・比べられる量・割合は、それぞれどの数量なのかを正しく決められるようにする。もとにする量の割合は、1であることなど、基本となる考え方をを用いて問題に合う正しい式を立て、答えを求められるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.3	71.6	67.4
	生命・地球	80.4	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	74.6	72.1	68.8
	観察・実験の技能	81.4	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	78.0	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「ものの燃え方」に関する問題では、3問とも正答率が90%を上回り、市の正答率を上回った。 ○食塩水をリトマス紙につけたときの色の変化をみる問題では正答率が83.6%で市の正答率を15.5ポイント上回った。 ●「電流の強さと電磁石のはたらき」の関係を調べる問題では、正答率が45.1%で、市の正答率を7.3ポイント下回った。	・電流の強さは、電池の数に比例するという既習事項を、実験前におさえるようにするとともに、対照実験での変える条件と変えない条件を、実験前に十分確認するようにする。
生命・地球	○「植物のつくりとはたらき」の実験に関する問題では、2問とも正答率が90%を上回った。 ○太陽と月と地球の位置関係に関する問題では、正答率が96.7%と高かった。 ●だ液のはたらきを調べる実験に関する問題では、正答率が54.9%と低かった。	・児童は、ヨウ素液の色が変わったことに視点が行きがちである。そこで、だ液のはたらきにより、でんぷんが別のものに变化したために、ヨウ素液の色が変わらなかったことに着目させるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実にを行うための工夫	・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などのカードを各教室の黒板に準備し、どの授業でも活用できるようにしている。 ・「板書見せ合いの日」を設定し、互いに見せ合い、参考にする機会を設けている。	「授業の中で目標が示されている」「学習したことを振り返る活動をよく行っている」「ノートには学習の目標とまとめを書いている」の肯定割合は市のものを上回り、さらに、5年生の数値は4年生の数値を大きく上回っている。
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	・授業の中の話合いで、ペアやグループ、全体などの形態を工夫するとともに、発達段階に応じた話し方・聞き方のスキルを身に付けさせる。	「グループの話合いに自分から進んで参加している」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」では、5年生は昨年度の数値より10%以上上回っている。しかし、4年生は市の肯定割合を大きく下回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	・学年内で宿題の量や家庭学習の仕方をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスに紹介する。 ・保護者が自主学習ノートを確認する機会を設定する。	「宿題は自分のためになっている」の肯定回答は90%を大きく上回るものの、「宿題はやりたくない内容だ」「学習に自分から進んで取り組んでいる」では市の数値を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生の国語では、物語文、説明文の読み取りの正答率が高かった。校内研修において、昨年度、一昨年度は説明文の、また、本年度は物語文の読み取りの力を付ける研究を進め、その成果をそれぞれの学年に還元してきた成果の現れであると思われる。来年度も引き続き進めていきたい。

・低学年からペアやグループ、全体での話合いを充実させることで、学び合う授業の確立を図り、話合いに進んで参加したり、話し合うことで自分の考えを深めたり広めたりすることができる児童を育成していく。

・家庭学習については、学年で内容をよく検討し、めあてをもって取り組めるようにする。また、低学年から自主学習を推奨し、様々な内容を紹介していく。さらに、「家庭学習振り返り週間」を実施し、保護者にも励まし認めてもらえる機会を増やしていくことで、自主的に取り組む児童を増やしていきたい。